

まちづくり協働課の取組報告

1. 町内会長個別訪問

＜取組テーマ1 「情報の発信・取得・共有」＞



2. 協働チャレンジ事業

＜取組テーマ3 「組織・活動の見直し」等による「持続可能な運営」＞

3. 職員協働研修

＜取組テーマ2 「場所・機会の提供」による「人づくり」＞

前提として

【草津市が目指すまち(草津市総合計画)】



【現状】

全国的な人口減少社会の中、人口増加が続き、令和6年4月には市の人口が14万人に達するなど、多くの方に「選ばれるまち」として発展を続けています。

前提として

【これからの草津市の課題】

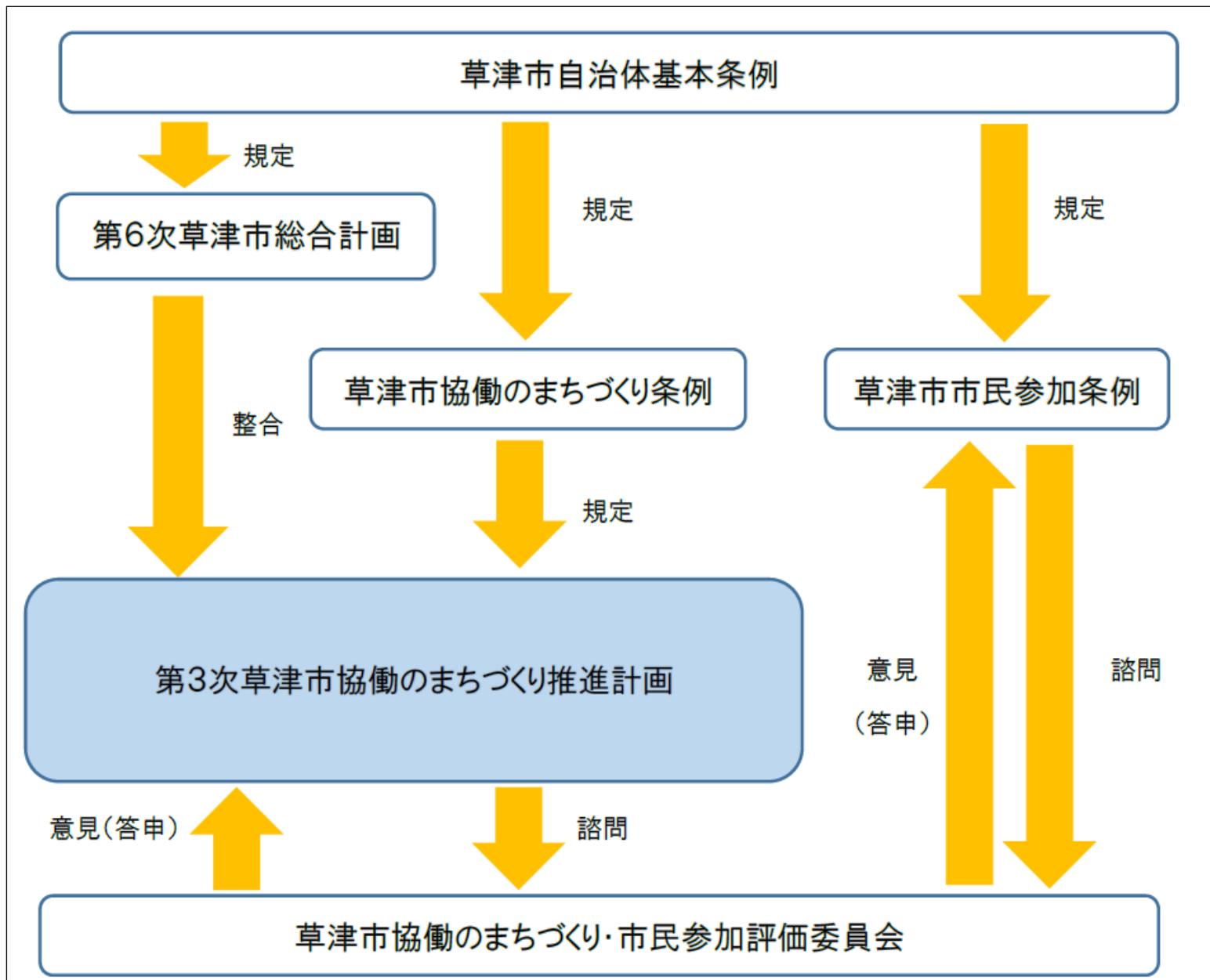
少子高齢化／人口減少／価値観の多様化／コミュニティの希薄化／
自然災害の頻発化／犯罪率の増加 等



行政の画一的公平性だけでは解決できない、、、

「協働のまちづくり」が重要

前提として



協働のまちづくりについて

草津市協働のまちづくり条例では、市民、まちづくり協議会、基礎的コミュニティ、市民公益活動団体、教育機関、中間支援組織、市という7つの主体についてそれぞれ定義しています。

第3次草津市協働のまちづくり推進計画では、各主体の横断的な課題を解決するために、各主体の目指す姿を定めました。

地域課題の解決は、各主体が課題を我が事と捉え、参画することから始まります。

課題解決においては、「対話」と「協働」が重要です。

「協働」することで、単独で取り組むよりも大きな成果が期待できますが、「協働」は手段であり、目的ではありません。

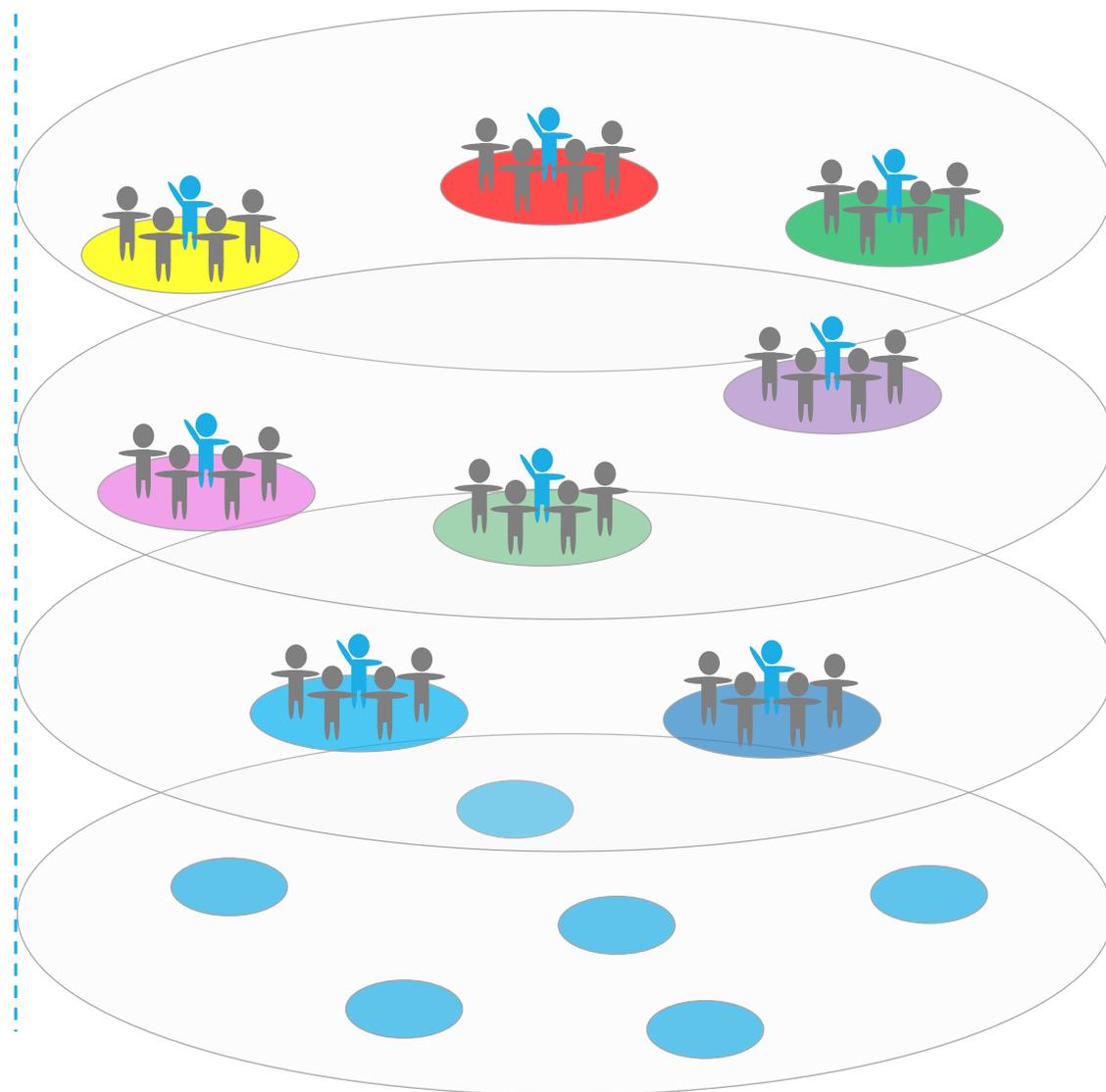
また、すべての課題に対して「協働」が有効であるというわけでもないため、各主体の課題に合わせ慎重に取り組む必要があります。

協働のまちづくりについて

草津市内では、各主体が様々なエリアで、様々な分野で活動しています。

【各主体】

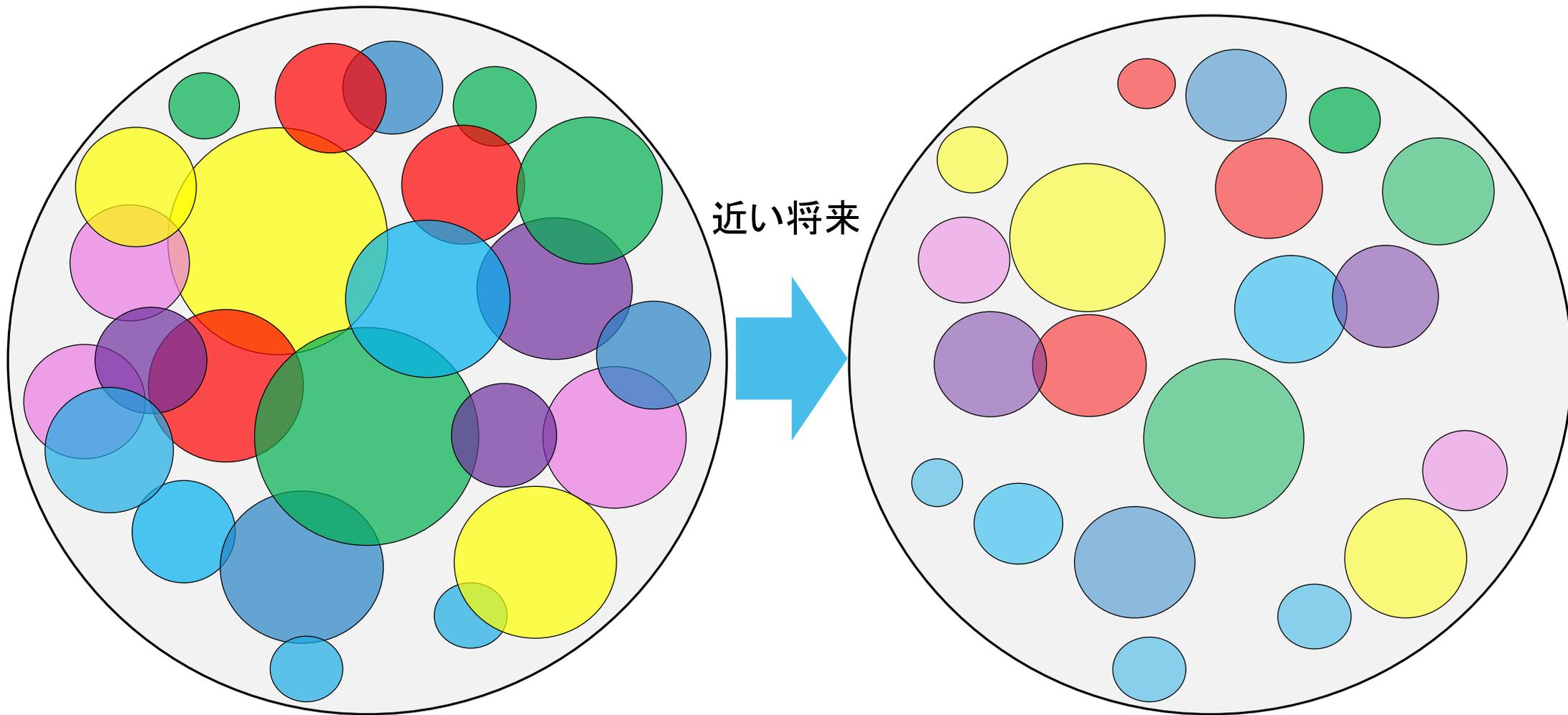
市民/まちづくり協議会/基礎的コミュニティ/市民公益活動団体/教育機関/中間支援組織/市
更に細分化すると、、、
私発/有償ボランティア/労働者協同組合/企業/民生委員・児童委員/こども会/PTA/のびっ子/学生団体…etc



まちづくりの重層構造(イメージ)

協働のまちづくりについて

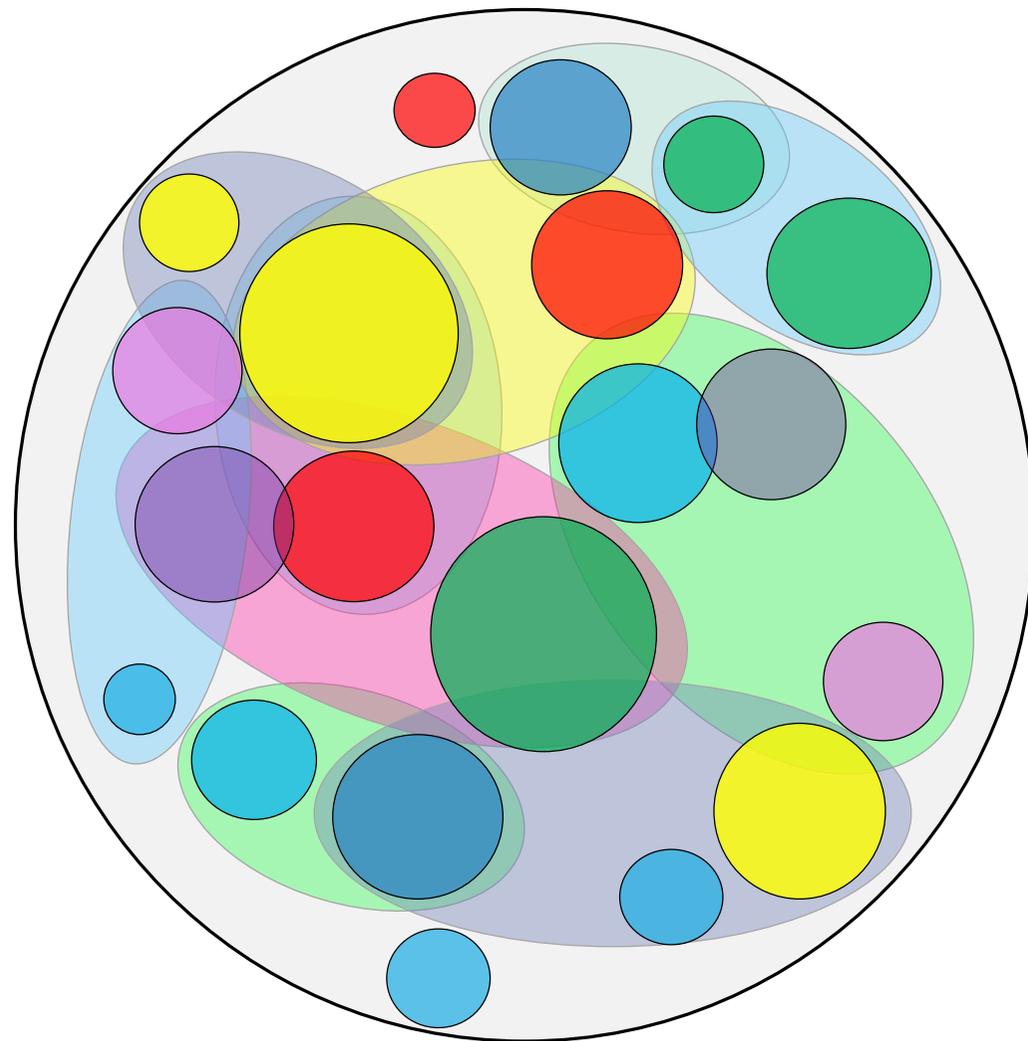
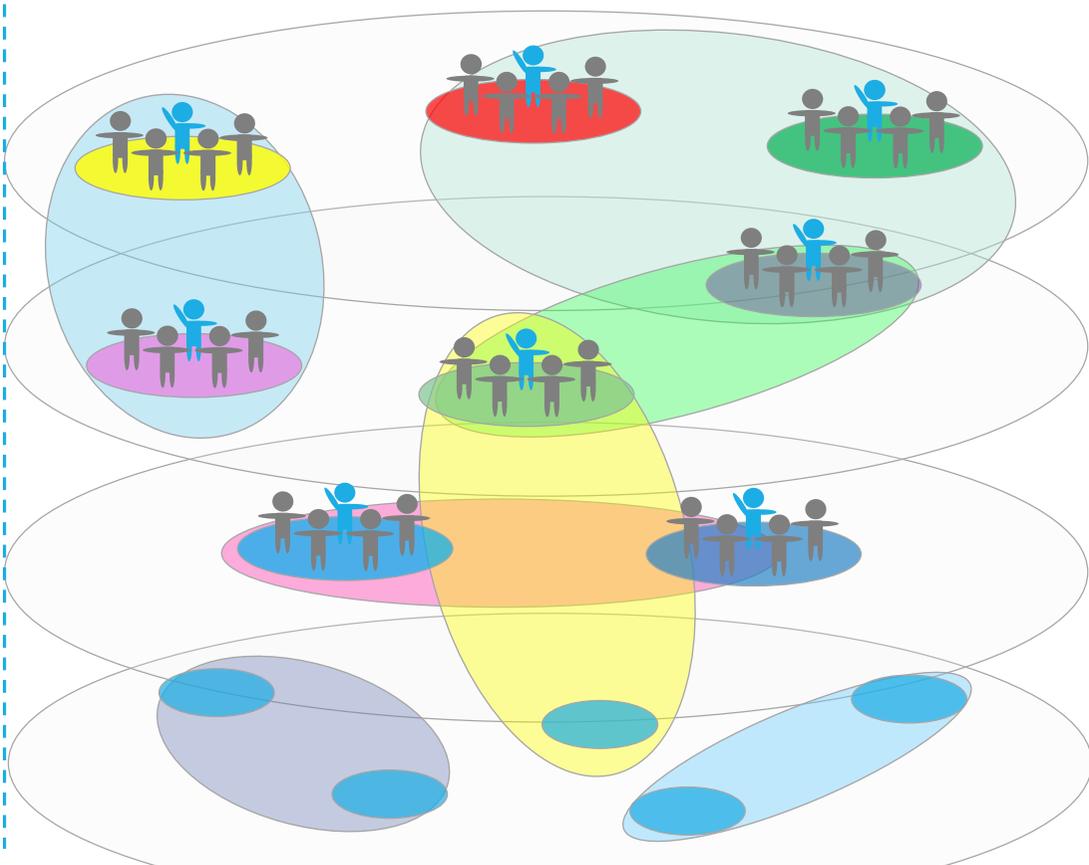
上からみた図



少子高齢化／人口減少／価値観の多様化等により、コミュニティの規模の縮小化や希薄化が起き、既存のコミュニティで賄われていたサービスが受けられなくなる可能性が高い。

協働のまちづくりについて

上からみた図



主体間が協働することで、活動の幅が広がり、それぞれの地域課題や市民ニーズをカバーできる体制となります。

1. 町内会長個別訪問 対話

市が町内会の状況を把握するとともに、町内会が市に相談しやすい環境を整えるために、町内会長個別訪問を実施しています。

当該事業では、町内会長の自宅に訪問し、町内会の加入率や、役員の負担、活動の見直しなど、町内会の抱える課題や意見をお聞きしています。

【基礎的コミュニティの現状】

○「自分たちの地域は自分たちでつくる」

⇒地域住民同士が日ごろから親睦と交流を通じて連帯感を深めながら、地域の課題に協力して取り組んでいただいている。

(街灯、ごみ集積所などの維持管理、広報紙の配布委嘱など)

○草津市 221町内会(R7.3)

町内会加入率が年々減少。未加入者、退会者の増加。

(H22:89.3%⇒R7.3:84.0%)

1. 町内会長個別訪問

対話

【基礎的コミュニティの現状】

※R6町内会長アンケートより

○町内会長(年代)

- ・60歳以上が4分の3(74%)
- ・在職年数 1年未満(65%)

<課題>

「役員の担い手がない」、「町内会に入ってくれない」、「町内会から退会される」、「活動に参加してもらえない」

<要因> 高齢化、核家族化、共働き世帯の増加、価値観の多様化

1. 町内会長個別訪問

対話

【実績】

令和5年度：9件

令和6年度：17件

令和7年度：12件(現在まで)

※1度の訪問で複数の案件について相談を受ける場合があります。

分類	件数	分類	件数	分類	件数	分類	件数
建物等の管理に関する事	6	空地に関する事	2	こども会に関する事	1	事務のIT化に関する事	1
道路に関する事	6	ゴミ集積所問題に関する事	2	集会所用地に関する事	1	樹木の伐採に関する事	1
町内会役員の選出に関する事	5	町内会運営に関する事	2	フードバンクに関する事	1	神社運営に関する事	1
役員の担い手不足に関する事	5	町内会長の負担軽減に関する事	2	河川に関する事	1	町内の安全に関する事	1
空家問題に関する事	4	補助金に関する事	2	街灯の設置に関する事	1	町内会の設立に関する事	1
町内会退会者に関する事	4	草刈りに関する事	2	交通安全に関する事	1	町内会費の見直しに関する事	1
認可地縁団体に関する事	3	町内会内トラブルに関する事	2	広報・チラシ配布に関する事	1	防災に関する事	1
民生委員に関する事	3	町内危険区域に関する事	2	高齢者の孤独死対策に関する事	1	その他	8

1. 町内会長個別訪問

対話

【傾向】

分類	件数	分類	件数	分類	件数	分類	件数
建物等の管理に関すること	6	空地に関すること	2	こども会に関すること	1	事務のIT化に関すること	1
道路に関すること	6	ゴミ集積所問題に関すること	2	集会所用地に関すること	1	樹木の伐採に関すること	1
町内会役員の選出に関すること	5	町内会運営に関すること	2	フードバンクに関すること	1	神社運営に関すること	1
役員の担い手不足に関すること	5	町内会長の負担軽減に関すること	2	河川に関すること	1	町内の安全に関すること	1
空家問題に関すること	4	補助金に関すること	2	街灯の設置に関すること	1	町内会の設立に関すること	1
町内会退会者に関すること	4	草刈りに関すること	2	交通安全に関すること	1	町内会費の見直しに関すること	1
認可地縁団体に関すること	3	町内会内トラブルに関すること	2	広報・チラシ配布に関すること	1	防災に関すること	1
民生委員に関すること	3	町内危険区域に関すること	2	高齢者の孤独死対策に関すること	1	その他	8
						町内会の運営に関すること	33
						町内のインフラの維持管理に関すること	28

- ・令和5年度～令和7年度における相談案件を大きく分けると、「町内会運営に関すること」が最も多く、次いで「町内のインフラの維持管理に関すること」が多いことが分かります。
- ・「町内会運営に関すること」においては、担い手不足や役員の負担、その他町内会特有のトラブル等の相談が多く、慎重な対応が求められています。

1. 町内会長個別訪問 対話

【課題】

・町内会の担い手不足への対策などは、一朝一夕で解決するものではなく、特効薬的な取組もないため、必ずしも明快な助言ができていない。

・町内会運営を持続可能なものとするには、組織体制と活動の両面での見直しが必要であるが、何をすれば町内会の負担軽減等に繋がるのか、訪問した際に共に考える中で、総じて「できることからやってみよう」という結論になっていることが多いものの、令和6年度に実施した町内会アンケートで把握した町内会の取組内容や、各学区が開催される市長とまちづくりトークでの意見交換でお聞きする取組の中には、他の町内会で参考になる事例もあることから、情報の共有を継続的に行う必要がある。

1. 町内会長個別訪問 **対話**

【問いかけ】

- ・町内会の担い手をやりたいと思ってもらうためにはどうすれば良いか？
- ・町内会の抱える課題を解決するためにはどの主体との協働を進めるべきか？

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

協働チャレンジ事業とは、くさつラウンドテーブル等で出たアイデアを形にし、協働事業の実施を促進するために創出した事業であり、協働事業を実施する所属に対し、まちづくり協働課から予算を交付するというものです。

【協働事業の現状(協働チャレンジ事業の成り立ち)】

令和3年度のキラリエ草津開所に合わせ、くさつラウンドテーブルを開始しました。

くさつラウンドテーブルは各主体の関わりを生み出しながら、フラットな立場で意見交換を行い、課題解決の対応策や協働事業の実現を目指すという目的で誕生した事業です。

実際にくさつラウンドテーブルから生まれた協働事業もいくつかありますが、財政面に対する補助がない分、事業が実現しづらい、継続しづらいという声がありました。

また、市と市民公益活動団体が協働するにあたり、実際に協働事業を実施するには時間がかかるという負担感や、どこで協働して良いか分からない、予算化のハードルが高いなどといった様々な課題がありました。

これらの課題を解決するために、現在協働チャレンジ事業を展開しています。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

【内容】

予算額: 600千円

採択枠: 200千円 × 3所属

※市所属・市民公益活動団体両方から募集。

○市所属: 市の課題に対して、協働相手を探して実施する。

○市民公益活動団体: ラウンドテーブル等で市民や市民公益活動団体から出たアイデアを具体化する



2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

【令和6年度採択実績】

- ①「中学生ボランティアによるこどもの居場所づくり支援事業」 **市提案**
＜こども若者政策課×認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト＞
- ②「協働サポーター障害者理解促進業務」 **市民提案**
＜障害福祉課×草津手をつなぐ育成会＞
- ③「第2回子育て応援フェスタ」 **市民提案**
＜子育て相談センター(男女共同参画センター・人とくらしのサポートセンター・まちづくり協働課)×まちのコミュニティハブ ツナグ＞

【令和7年度採択実績】

- ①「中学生ボランティアによるこどもの居場所支援事業」 **市提案**
＜こども若者政策課×認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト＞
- ②「協働サポーター障害者理解促進業務(「びわこ☆めだか隊」による講座他 障害者理解のための講座等)」 **市民提案**
＜障害福祉課×草津手をつなぐ育成会＞
- ③「第3回子育て応援フェスタ」 **市民提案**
＜子育て相談センター(男女共同参画センター・まちづくり協働課)
×まちのコミュニティハブ ツナグ＞

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

①「中学生ボランティアによるこどもの居場所づくり支援事業」(令和6年度) 〈こども若者政策課×認定NPO法人くさつ未来プロジェクト〉

【目的】

「こどもまんなか社会」では、こどもや若者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていくことを目指している。

令和6年度に開催した「市長と中学生の居場所づくりトーク」にて、「小学生がスマホやYouTubeなどで家に閉じこもっている。もっと外に出て遊んでほしい、中学生も役に立ちたい」という旨の発言があったことから、中学生の課題認識やそれに伴うチャレンジを、草津市内で子どもの居場所づくりに取り組む団体との協働事業により応援する。

【事業内容】

- ①市内公立6中学校に照会し、参加中学生を募集する。
- ②応募のあった中学校区で、フリー&アフタースクールやこども食堂などのこどもの居場所づくりを実施する団体等と中学生の意見交換
- ③中学生がどんなことをして小学生と遊びたいかを具体化し、事業化。
- ④実践ができた中学校においては、事後の意見交換を実施し、感想の共有や次年度以降の協働の可能性について検討する。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

①「中学生ボランティアによるこどもの居場所づくり支援事業」(令和6年度) ＜こども若者政策課×認定NPO法人くさつ未来プロジェクト＞

【事業実績】

＜令和6年度①＞

実施主体:草津中学校生徒会メンバー6名

実施内容:秘密基地づくり・宝探し

参加者:HOPEのこどもたち15名



草津中学校事前打合せの様子

＜令和6年度②＞

実施主体:老上中学校生徒会メンバー21名

実施内容:逃走中(鬼ごっこ)

参加者:のびっ子老上1・2年生67名

令和6年度実績額:167,516円



草津中学校交流会当日の様子

老上中学校交流会当日の様子

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

①「中学生ボランティアによるこどもの居場所づくり支援事業」(令和6年度) 〈こども若者政策課×認定NPO法人くさつ未来プロジェクト〉

【中学生ボランティアの感想】

- ・中学校は狭い空間の関わりしかないため、アフタースクールのようにいろんな年齢層と関われる場所や機会をつくりたいと思った。
- ・自分たちで企画して実行することが人のためになるということを知った。自分たちの良い経験だけで終わらず良かったと思う。

【協働の成果】

- ・中学校や小学校、のびっ子、フリースクールなど、垣根を越えた交流を実施することができた。
- ・くさつ未来プロジェクトの伴走により、中学生が主体的に事業を進めることができ、学校の経験以外で自信を醸成する機会となった。
- ・中学生も参加した小学生もとても楽しんでおり、次も参加したいという意見が多く見受けられた。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

②「協働サポーター障害者理解促進業務」(令和6年度) ＜障害福祉課×草津手をつなぐ育成会＞

【目的】

障害福祉課で実施している出前講座や市の後援により草津手をつなぐ育成会で開催している学習会を、より市民の方向けにしたものを共催で開催し、地域の方へのPRを行い、障害のある人が、どんなことで困っているのかを実際に体験していただくことで、草津市民の障害者理解の一助とする。

【事業内容】

- ①障害福祉課の実施する出前講座に「びわこ☆めだか隊」が出動し、疑似体験などワークショップを実施する。
- ②より理解を深めたい方向けには、地域で安心して暮らし続けられるような制度の学習会や講演会を実施する。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

②「協働サポーター障害者理解促進業務」(令和6年度)

＜障害福祉課×草津手をつなぐ育成会＞

【事業実績】

実施年月日	活 動 内 容	場 所 ・ 参 加 者 数 等
【研修事業】		
R6年10月7日(月)	テーマ「卒業後の進路について」聞こう 講 師：草津養護学校進路担当 夏原知之	草津市立市民総合交流センター (キラリエ草津) 502 会議室 15名
R6年11月22日(金)	草津市公用バスで行く「就労移行支援事業所 と多機能型事業所」の施設見学会	午前：働き教育センター湖南 午後：パレット・ミル 20名
R7年2月20日(木)	テーマ「親なきあとも安心できるために～お 金のはなし～」 講 師： 全国育成会連合会常務理事 又村 あおい	草津市立市民総合交流センター (キラリエ草津) 6階大会議室 123名
【びわこ☆めだか隊出前講座】		
R6年12月11日(水)	山田学区社会福祉協議会「人権研修」	山田まちづくりセンター 35名
R7年1月24日(金)	草津市自立支援協議会 「合理的配慮の研修会」	草津市役所2階特大会議室 80名
R7年2月18日(火)	陽の丘団地ふれあいサロン 「障がい理解研修」	陽の丘団地自治会館 23名

実績額：119,770円



研修「親なきあとも安心できるために～お金のはなし～」の様子



陽の丘団地ふれあいサロン
「障がい理解講座」の様子

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

②「協働サポーター-障害者理解促進業務」(令和6年度) ＜障害福祉課×草津手をつなぐ育成会＞

【協働の成果】

- ・協働することにより広報力が増大し、市と団体それぞれで事業を実施していたときよりも多くの市民、障害福祉関係の職員に参加いただくことができた。
- ・草津手をつなぐ育成会のノウハウにより、障害のある人の見え方や感じ方を直接体験する機会等を設けることができ、参加者が障害と障害のある人への理解を深めることができた。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

③「第2回子育て応援フェスタ」(令和6年度)

＜子育て相談センター(男女共同参画センター・人とくらしのサポートセンター・まちづくり協働課)×まちのコミュニティハブ ツナグ＞

【目的】

草津市の行政と民間が一体となり、子どもの育ちと子育て家族を応援し、ソフト面で【日本一子育てしやすいまち】を目指す。

子育て層(世帯)とそれに携わる地域住民が、行政の相談窓口担当者とイベントを通じて出会い、顔の見える関係を築くことで、相談・行政サービス利用へのハードルを下げ、いざという時に専門機関に繋がりがやすい環境を作る。

また、市民活動団体、教育機関・学生団体や地域貢献を行う企業(事業者)などにもイベント出展してもらうことで、これまでにない新たな出会い・つながりづくりをコーディネートし、多世代交流や協働事業創発のきっかけとする。

【事業内容】

キラリエ草津の5階・6階を使用し、2024年1月21日に行った『子ども子育て応援フェスタ』のアップデート版として、家族で楽しめるイベントや子育て中の保護者の相談会を行う。官民協働に加えて立命館BKCなどの教育機関、学習塾やワークショップを得意とする事業者など多様な参画を促し、交流機能を高め新たなつながりづくりの場とし、今後も地域住民が市民交流拠点キラリエ草津へ足を運ぶきっかけとする。

2. 協働チャレンジ事業 協働(実践)

③「第2回子育て応援フェスタ」(令和6年度)

＜子育て相談センター(男女共同参画センター・人とくらしのサポートセンター・まちづくり協働課)×まちのコミュニティハブ ツナグ＞

【事業実績】

実施内容: 絵本読み聞かせ・ハイハイレース・相談ブース・おしごと体験・こども向けワークショップ・ファミリー向けマルシェ 等

参加者数: 0～3歳	155名	4～6歳	90名
小学校低学年	46名	小学校高学年	9名
中・高・大	4名	保護者	317名

実績額: 200,000円



当日の様子

30以上の出展者が参加!!
入場無料
 草津市市民総合交流センター
 キラリエ草津 5F・6F
子育て応援フェスタ
 2025.2.22 (sat)
 出会いとつながりで子育てを応援!
 詳細はコチラ
マルシェ & ワークショップ
 ハンドメイド作家の作品や親子で楽しめるワークショップがたくさん!
ステージ・講座
 ハイハイレースや手話講座など、赤ちゃんから楽しめます♪
親子体験ブース
 触れて・感じて楽しめるブースがいっぱい! 健康チェックや沐浴体験もあるよ。
スタンプラリー
 スタンプラリーのゴールを目指そう!
会場 京「草津」駅 / 東口から徒歩約5分
 草津市市民総合交流センター キラリエ草津・5F・6F
開催日時 2025年2月22日(土)
 9時30分～13時
 *ご来場は「公共交通機関」をご利用ください。
 (主催)草津市 / まちのコミュニティハブツナグ (共催)コミュニティハブツナグ (協力)フレンドマーケット草津大橋店

チラシ

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

③「第2回子育て応援フェスタ」(令和6年度)

＜子育て相談センター(男女共同参画センター・人とくらしのサポートセンター・まちづくり協働課)×まちのコミュニティハブ ツナグ＞

【協働の成果】

- ・協働することにより広報力が増大し、多くの市民に参加いただくことができた。
- ・子育て相談センターという公的で専門的な窓口で相談ができるという信頼感と、まちのコミュニティハブ ツナグのピアサポートとしての同じまま目線でお話できる安心感で、楽しくかつ心理的安全性が高いイベントを開催することができた。
- ・市の関係課と団体の顔の見える関係づくりができ、今後も協働して子育て支援ができる地域づくりの土台ができた。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

【課題】

- ・各所属、団体がより効率的に事業を実施できるよう手続きの見直しを検討していく必要がある。
- ・市民公益活動団体として、現在キラリエサポーターに対して募集を行っているが、より多くの団体の想いを形にしていくため、募集先の拡大について検討していく必要がある。

2. 協働チャレンジ事業 **協働(実践)**

【問いかけ】

- ・協働チャレンジ事業を進めていくうえでより工夫すべき点はあるか？

3. 職員協働研修 **協働(意識)**

職員協働研修では、職員一人ひとりが連携・協働のメリットを実感し、実践できるよう、また、全庁的に協働のまちづくりを円滑に進めることができるよう、新規採用職員研修と主任・主査職員研修をそれぞれ実施しています。

【草津市職員の現状】

○平成26年度をピークとする大量退職があり、平成27年度では全職員の約55%(415人)となっていた30代以下の職員数が、令和6年度では60%(520人)に増加。

○令和7年度の新入社員は、高校2年生の終わりに新型コロナウイルスを経験。

授業、受験、大学生活、就職活動等において、オンラインと対面のどちらも経験している。

⇒これからの新規採用職員の傾向として

・デジタルには慣れ親しんでいるが、「みんなで何かをした」経験が少ない

3. 職員協働研修 **協働(意識)**

【内容】

＜新規採用職員＞

協働のまちづくり・町内会・まちづくり協議会について

＜主任・主査職員研修＞

「私を活かせる協働って？」・価値観ワーク



主任・主査職員研修の様子

3. 職員協働研修 **協働(意識)**

【新たな試み】

令和7年度新規採用職員研修では、(公財)草津市コミュニティ事業団と協働し、新規採用職員研修×くさつラウンドテーブルを実施しました。

<目的>

市職員と市民が対話を通じて相互理解を深め、協働の土台となる関係性の構築を図ることを目的とする。また、市民と職員が立場・肩書を取り払って意見を交換することで、市民活動やまちづくりに対する関心と理解を高め、今後の協働の推進に資する意識醸成を図る機会とする。

<ワークテーマ>

「あなたが想う“良いまち”とは？」

<参加者数>

新規採用職員	38名
市民	38名



新規採用職員研修の様子

3. 職員協働研修

協働(意識)

【参加者の感想紹介】

＜新規採用職員＞

- ・色々な地元(地域)の話や思いを共有することができ、まちづくりはこうやってしていくんだ...と身をもって感じる事ができた。
- ・地域によって課題が違い、ニーズも違っていて考えさせられた。
- ・市民の方のお話がたくさん聞けて本当に良かった。
- ・知らなかったことが知れた。これから職員として頑張りたい。

＜市民＞

- ・どんな立場の人でも話しやすく、楽しく草津市について考えられる時間になった。
- ・団体や活動内容が違って「良いまち！」をテーマに話ができる。これこそが協働だなと感じた。
- ・市の若い職員と交流できる機会が素敵。
- ・新入職員の方とお話しができ、大変良かった。
- ・草津市の職員は他自治体と比べ市民との距離が近く、素晴らしい。

etc...

3. 職員協働研修 **協働(意識)**

【課題】

- ・職員協働研修は協働に対する意識の向上を目的とするものですが、実際に協働の実績が現れるには時間がかかる。
- ・内部管理等を行う所属によっては、協働を実践する場が少ないというケースがあるが、異動した所属で協働を実践できるよう、協働に対する意識を持ち続けておく必要がある。
- ・行政職員に染まり切っていない新規採用職員にとっては印象に残る研修となったはずであるが、協働意識の定着のために更に実践経験を積んでいく必要がある。
- ・多くの所属が既存業務の対応に終始せざるを得ない状況の中で、協働による双方のメリットが実感できるような研修に取り組んでいく必要がある。

3. 職員協働研修 **協働(意識)**

【問いかけ】

- ・より「協働」の意識付けにつながる「話題」はどんなテーマか？
- ・協働を実践するうえで市職員が身に着けておくべき知識は何か？

まとめ

協働のまちづくりを推進するために、当課で町内会、市職員、市民公益活動団体に向けて実施している事業の報告をさせていただきました。

町内会運営に関する負担軽減や、市職員の協働意識、市と市民との協働については、すぐに効果が出るものではありませんので、長期目線で引き続き事業を実施してまいります。

これらの取組については、「町内会・自治会アンケート」、「職員の協働に対する意識調査」等で進捗管理を行ってまいります。

御清聴ありがとうございました。

